

御祓中だより

3月号その2 (集面有り)

学校ホームページ <http://cms1.ishikawa-c.ed.jp/~misogj/NC2/htdocs/>
学校メールアドレス misogityu@city.nanao.ishikawa.jp

平成25年 3月22日
No.17 七尾市立御祓中学校
TEL 53-0201

卒業生84名の巣立ち

3月12日(火)に本校卒業式が行われ、84名の卒業生が学舎を巣立っていきました。当日は卒業生を祝福するようなすばらしい天気でした。七尾市教育委員会から三室郁夫教育部長が告辞を述べられ、橋場幸雄PTA会長から祝辞をいただきました。学校長式辞は、昨年12月にノーベル医学生理学賞を受賞した京都大学の山中伸弥教授の生き様を紹介し、心に刻んでほしいと話しました。概要は次のとおりです。

「iPS細胞」を作り出すことに世界で初めて成功した山中伸弥教授は、順風満帆な人生を歩んできたように見えますが、決してそうではありませんでした。むしろ、挫折の連続でした。山中教授は、当時を振り返って「例えば10回のうち、たった1回の成功のために、9回の失敗経験を乗り越えなければならない。人によっては、3回の失敗で済むかもしれない。逆に、20回の失敗を見る人もいるかもしれない。やってみなければ、それは分からない」と言って、「日常のストレスが大きく、何十回トライしても失敗ばかりで、泣きたくなる20数年だった」と述懐しています。

しかし、そこから学んだことは、「失敗しないと成功はできない。高く飛ぶためには思いっきり低くかがむことが必要だ」と自らに言い聞かせたそうです。つまり、「かがむ」とは、「失敗」のことです。山中教授は「失敗は成功するために必要なこと。失敗しなければいけないほど、成功は遠のいていきます」。また「失敗をすればするほど幸運は来る。若い間に、いっぱい失敗して、挫折してください」とも言っています。

一見無駄に思われることでも、経験したこと、体験したことでも無駄なことはないということをお教えるエピソードです。「もっと合理的な生き方が出来たのではないか?」と思われるかもしれませんが、そうやって回り道をしたからこそ今の山中教授があるのではないかと思います。

また、アメリカ留学の時に、研究者として成功するには「ビジョンとハードワーク(VW)」、つまり長期的な展望としっかりした目標を持ち、一生懸命に努力を重ねれば、その一念は必ず叶うということをお師から教わったそうです。

さらに、やるかやらないかの選択を迫られたとき、やらなくて後悔するくらいなら、やってから後悔しようといったメッセージも発信しています。新しいチャレンジをすると、とりあえず頑張ろうと思いますが、チャレンジをやめるとそこから先へ進むことは決してできません。山中教授は、「私にとってノーベル賞は過去形になる」と言って、今でも新しいチャレンジをするように心がけているそうです。そして「人生の目標は、iPS細胞を一日も早く患者に届け、多くの患者を救うことです」と力強く言い切っています。

百人の人がいれば百通りの人生があります。それぞれの人生をどのように設計していくかは、自分自身が選択し決めることになります。

何かを成し遂げようとする時に、必ず、過去に辛いことを克服した経験が役に立つものです。そうした経験が多ければ多いほど、克服できる力は大きなものとなります。皆さんにも、それぞれに、辛いことや、悩みがあると思います。解決しなければならない課題を、いくつも抱えている人もいます。

人は、自分で自分に厳しい課題を課し、それを解決するために、苦労や努力を重ね、『困難に立ち向かっていこうとする』生き方こそ大切なのです。そうした生き方を歩んでくれることを願っております。

卒業式の終盤は在校生の「Tomorrow」、卒業生の「大地讃頌」そして最後は「仰げば尊し」を全校で合唱して卒業式を終えました。素晴らしい卒業式でした。卒業生の皆さん、おめでとう!!

「皆勤賞」受賞 おめでとう！

卒業式の前日、卒業生を対象に中学校3年間で1日も休むことがなかった16名の生徒が、皆勤賞を受賞しました。悪天候の中でも体調が優れなくても毎日登校できたことは、大変意義のあることです。簡単なようではなかなかできるものではありません。3年間で習慣として身に付いたでしょうし、忍耐力も養われたのではないかと思います。大きな自信としてほしいと思います。16名の皆さん、「皆勤賞」受賞、おめでとうございます。受賞した16名の生徒の皆さんは、次のとおりです。

- | | |
|--------|--|
| 【3年1組】 | 西野 雄大、天坂 伶香、長坂 琴子、渡辺穂奈美 |
| 【3年2組】 | 岡部 拓朗、浅野 千晶、大森ちあき、岡崎 遥耶、奥村 眞子 |
| 【3年3組】 | 江守 康輔、高田 翔太、石垣 美穂、高木 香織、久木あずさ
宮元 悠花、横地菜々子 |

離任式のお知らせ

今年度の離任式は、3月29日（金）13：40に行われます。異動の発表日は現在分かっておりませんが、22日以降の新聞紙上で発表されると思いますので、そちらでご確認をお願いします。特に、卒業生の皆さんは是非参加をお願いします。3月31日までは御祓中学校に在籍する生徒ですので、御祓中学校の制服を着て、自転車で来る生徒はヘルメットと反射タスキを着用して、参加して下さい。

「保護者サポーター」の設置

今年度後期の保護者アンケートの結果を、学校だより「御祓中だより」2月号に掲載しましたが、ほとんどの質問項目の評価が80～90%台でした。しかし、「学校は、生徒の悩みや問題に応じて速やかに対応している」「何か困り事があったとき、学校に気軽に相談できる」の2つの項目だけが、70%台の評価でした。これは、前期の保護者アンケートでも同様の結果でした。

そこで、この結果を踏まえて、もっと風通しのよい学校にできればということで、学校では2学期に入って御祓地区と西湊地区の民生委員の方々に毎月1回のペースで来ていただき、生徒や授業の様子を見たり、学校の現状をお知らせしたりしています。後期のアンケート結果は、前期から見ると少しポイントが上がっていますが、同じ70%台です。

このことを受けて、来年度の平成25年度から「保護者サポーター」を設置し、保護者の皆さんの相談窓口にしたいと思います。「保護者サポーター」には学校や地域をよくご存じの方ということで、民生児童委員の寺岡卓子さん（松本町）に学校から委嘱をさせていただきます。

直接学校に相談しにくい、学校に相談していいものかどうか判断に迷う、などありましたら、「保護者サポーター」の寺岡卓子さん（090-2375-0951）までご相談下さい。匿名でも構いません。あるいは「保護者サポーター」止まりのご相談でも構いません。万（よろず）相談でも結構です。どんなことでもご相談下さい。

学校は、子どもたちが安心して学校生活を送ることができるように居心地のよい学校づくりをしていきたいと思っています。そのためには学校だけの思い上がった考えだけではいけません。周りから言ってもらって気が付くこともありますので、「保護者サポーター」を活用して、いろいろなご意見をいただければありがたいと思います。

なお、「保護者サポーター」だけではなく、直接学校へご相談されても構いませんので、よろしくをお願いします。

地域の高齢者にメッセージを！！

御祓地区の民生児童委員の皆さんが、地域の高齢者宅を訪問し、本校生徒のメッセージを付けてひなあられを贈りました。その後、多くの高齢者の方から学校へお電話やお手紙でお礼の言葉を頂戴しました。些細な事ですすが、高齢者の方々の気持ちが熱く伝わってきました。本当にやってよかったと思えました。お礼の言葉を紹介します。

◇ 「いつまでも元気でいて下さい」のメッセージを添えてひなあられをいただきました。感激いたしました。この言葉こそ今の私たちには何よりの言葉なのです。本当に有難うございました。

私たちには何もしてあげられませんが、どうぞ皆様が健康で幸せでありますようにいつまでも見守り祈っています。Tさん

◇ 2年生の皆さんへ

3月6日、昼頃、町内の民生児童委員の方よりきれいで可愛い“ひなあられ”が届きました。有難くちょうだい致しました。

今の私にとって最高の言葉をいただき、本当に嬉しいです。私も皆さんに負けないように笑顔を忘れず元気で楽しい老後をお過ごしします。本当に有難うございました。

皆さんもあと1年で卒業ですね。次の学年に向かって元気で頑張ってください。応援していますから。 81歳の方

◇ 御祓中学校生徒皆様

齋藤来飛 様

この度、民生委員の方がお尋ね下さいました。そして温かい御祓中学校生徒の皆様の温かい言葉が添えられてあり、独り住まいの者に届けられました。

中学2年生「齋藤さん」の「おじいちゃん、おばあちゃん」へと……読ませていただき80半ばの私にとって涙が出る嬉しさでした。

私たち、若かりし頃、中学生の皆様と同じ年頃には戦争のさなかでした。お米も少なく配給されました。わずかの食べ物「お国のため」と食糧生産のため開墾し、またあとには兵器工場に行きました。中学生の皆様と同じ年頃でした。こうして長く生きて現在の幸せがありました。

家族と住めなくて淋しさもありますが、齋藤君と「同じ地域に住んでいる」と励まして下さいました。「心よりありがとう」と温かい言葉。民生委員の方が時々尋ねて下さっています。老いて平和な毎日を元気にいられる毎日「心よりありがとう」とお伝えして、今後共に迷惑をかけず元気でいることを願っています。 Kさん

地域の高齢者にひなあられ贈る

七尾・御祓の民生委員児童協議会

七尾市御祓地区民生委員児童協議会は六日、地域の七十五歳以上のお年寄り百八十人に、ひなあられを贈った。

委員十七人が五日夜、御祓公民館で、詰め合わせ作業をした。多機能型事業所「みのり園」（七尾市国分町）で作られたあられやコンペイトーなどを購入。御祓中学校の生徒たちのメッセージ付きの紙に包んだ。これまで弁当を贈っており、季節に合わせたひなあられのプレゼントは初めて。

メッセージには「病気やけがに気をつけて長生きしてください」「私も勉強を頑張っていますので、おじいちゃんおばあちゃんも元気に過ごして」など

ひなあられの詰め合わせ作業をした協議会メンバー（七尾市御祓公民館で）

と書かれている。委員らはお年寄り宅を訪れ、「生徒にも手紙を書いてあげて下さい」などと声を掛けて手渡した。

事業を担当した協議会副会長の小島恵子さん（左）は「みんなが元気になれば」と期待し、深浦利雄会長（右）は「子どもたちの思いを込めた」と話していた。（福本英司）



(↑ 中日H25. 3. 8)

→ 前のページからの続き

◇近松京香さん はじめまして

今日、私たちに「ひなあられ」を贈って下さいましてありがとうございます。とても元気を頂きました。

私は花が大好きです。京香さんは何の花が好きですか。

世界に一つだけの花を咲かせて下さい。

Mさん

◇岡崎正悟さんへ

はじめまして。

先日、民生委員の方がひなあられを持ってきて下さいました。珍しい品を早速いただきました。大変おいしかったです。どうもありがとうございました。

正悟さん、体に気をつけて勉強に運動にと頑張ってください。

Iさん

子育ての悩み ～誰にでもある経験～

次の文章は、読売新聞に掲載された記事です。「□答えばかりして、うんざりする」という中学2年生の男子を持つ父親からの質問に対する回答です。どうぞ参考にして下さい。

中2といえば、思春期の真ん真ん中。わが身を省みても何かと反抗的な年齢とは理解しつつ、朝いつまでも寝ている、そのくせ夜はだらだら起きている、勉強しない、言葉遣いが悪い—ときたら、親としては注意せざるをえません。すると、すさまじい剣幕で□答え。うんざりする気持ちはよくねかります。

でも、そこで一呼吸入れるのが大事。日本大学の広田照幸教授（教育社会学）は「子どもは昔から□答えしながら成長してきたことを、まず頭にたたき込んで」と、子ども2人を育てる自己体験を踏まえて助言します。

「昔から」を証明する資料があるといえます。それは、半世紀以上前の1951年から翌年にかけて愛知大学が中2を対象に行った親子げんかの原因調査です。

結果を見ると「家の手伝いをするときの態度が悪い（73%＝複数回答）に次いで多かったのが「父母に□答え」で69%にも。言葉遣いの悪さも60%と高率でした。

「親は絶対権威」とされた時代ですえ、「□答え」で7割近い家庭が紛糾していました。価値観が変わった現代では、なおさらでしょう。

加えて最近、子育て期間が長期化し、さまざまな情報に接触する機会が増えます。中には「親の不適切な関わり方が子どもの将来を決定づける」といった不安を助長するものも少なくないため、親は自分自身やわが子の至らない点はかりに目が向き、いきおい、□答えにも過敏に反応するような窮屈な子育てに走ってしまいがちです。

そこで広田さんは「理想の親子関係、子ども像との比較をしないのも大切」と指摘します。「大切なことだけそのつど話し合い、あとは必ず成長すると信じて見守って」。自らも親と争いを繰り返してきた自戒を込めての励ましです。どうでしょうか。

1年間 ありがとうございました

3月22日（金）が修了式で、今年度の最後になります。1、2年生それぞれは無事進級することができました。それぞれ新しい学年で、悔いを残さないように頑張ってもらいたいと思います。また、保護者の皆さんには、この1年間のPTA活動にご協力を頂きまして、誠に有難うございました。来年度においてもご理解、ご協力をお願いします。

Let's call... オアシスライン ～親と子のなんでも電話相談室～

- ◆相談内容：悩んでいること、困っていること
- ◆TEL 0767-52-0783
- ◆受付時間：13:00～16:00（月曜～金曜）

*匿名でのお電話で構いません。秘密は守ります。

